

男女が共に支え助け合う 防災体制づくりに向けて

男女共同参画の視点からの防災手引書ダイジェスト版(第2版)

多様な立場の
人たちが安心して
過ごせる
避難所とは?

防災訓練の
ポイントは?

なぜ
女性の参画が
必要な?

避難所の
子育て・介護は
どうなるの?

地域の
備蓄物資は
どんなものが
必要?

この冊子は、誰もが安心できるまちと暮らしつくっていくために、地域防災の担い手である住民の皆さんに、男女双方の視点を防災に活かして、日ごろから取り組んでいただきたい内容をまとめたものです。

様々な機会や場所で、この冊子を活用して、共に考え、話し合い、男女共同参画の視点に基づく防災活動を具体的に進めていただけると幸いです。

なぜ防災に男女双方の視点が必要なのでしょうか



避難所で

大規模災害時には、長いあいだ避難所で共同生活を送ったり、様々な事情で在宅避難を続けたりするかもしれません。

私たちの地域には、多様な人々が暮らしています。高齢者、乳幼児、子ども、障害のある人、妊産婦、外国人、……。性別や立場が違えば、暮らしの中で必要な住環境、物資、サービスも違ってきます。

多様な人々に配慮できるよう、避難所での空間利用や運営を考えておくことで、みんなが少しでも過ごしやすい避難所になり、地域全体の被災状況を軽減することができます。

自主防災組織で

これまでの自主防災組織は、責任者の大半が男性で、そのために防災の活動に女性や子ども・若者が参加しにくい雰囲気がありました。女性たちは、参加していても重要な決め事をする場にはいないのが現状です。一部の男性に防災活動の負担が集中することも問題でした。

男女が、性別にとらわれないで、能力を十分に発揮することが、災害に強い地域づくりには欠かせません。

防災訓練で

私たちの防災訓練は、災害時に役立ち、防災知識が身につくものとなっているでしょうか。イザ!というときに、実際に役に立つ防災訓練にするためには、女性や子ども・若者も含めて多くの人が参加したくなるよう工夫をし、多くのことが学べる訓練にする必要があります。

これまでの災害で起こったこと

～男女共同参画の視点から～

災害

避難

家族の安否確認

避難所(体育館、公民館、学校など)や被災した家での生活

避難所生活が続く



(震災から約1か月後の
避難所の中)
撮影:田中雅子氏

生活再建に向けた動き
ホテル、旅館などへの
移動

仮設住宅、
民間借り上げ住宅
などへの移動

日常が戻り始める
復興住宅、自宅再建など

<こんなことに困りました>

高齢者、障害のある人など、避難が困難な人々は支援が必要でした。

対策は
3・4ページに!

〈物資の不足・配布方法〉

女性用・妊産婦用の衣類、生理用品、育児用品、介護用品が不足しました。また物資担当者は男性のみのことが多く、女性が必要な物資をもらったり、要望を出しづらい状況でした。

〈プライバシー〉

仕切りや更衣室がなく、プライバシーがなかったため、ストレスが溜りました。

〈少数派の多様な状況〉

避難所で生活しづらい人がいました(障害のある人・乳児・高齢者・外国人・認知症の人などとその家族)。

(赤ちゃんが夜泣きをして「うるさい」と言われる、認知症の親が徘徊する、日本語が分からず情報が得られない、性同一性障害でトイレやシャワーのとき困る、DV※の加害者に会わないか心配だった)

〈安全面での不安〉

街灯がない、屋外設置の仮設トイレは男女兼用で夜は暗い、見知らぬ人も多いなど、安全面の不安があり、暴力に遭う女性や子どもがいました。しかし、女性や子どもの安全確保は優先順位が低く、訴えにくい状況でした。

〈性別で役割が固定〉

避難所の責任者は大半が男性で、過度な負担が集中しました。

女性のみが炊き出しを長期間担当した避難所が多くありました。

〈避難所運営への女性の参画〉

女性が物事を決定する場にいなかったため、女性や子どものニーズが反映されにくい状況でした。

〈男性の過労、孤立〉

復旧、復興の仕事で過労が続きました。

仮設住宅などでアルコール依存、孤立や孤独死が起きました。

〈女性と子どもへの暴力〉

暴力、ハラスメント、DVや児童虐待が増加しました。

〈失業、厳しい再就職〉

女性に家事、育児、介護などの無償労働が集中し、幼稚園・保育園や介護施設の再開も遅れるため、就業の継続や再就職が困難でした。

〈復興への女性等の参画〉

女性や障害のある人、外国人が復興の話し合いに参加しにくい状況でした。

※DV:ドメスティックバイオレンス。夫婦や恋人など親密な関係にあるカップル間の暴力
各内容については、災害の種類や規模、地域により異なります。

● 避難所運営のポイント ●

運営方法

■ 男女両方の運営責任者を配置

- ・各作業班に必ず男女両方が参加しましょう(出来ればそれぞれ複数)。
- ・男女双方の視点やニーズの違いを反映しましょう。
- ・高齢者、若者、障害のある人や外国人などが関わるしくみをつくりましょう。

■ 役割分担は男女両方で

- ・「物資の仕分けは男性、炊き出しは女性」など性別で決め付けず、男女で共同作業をしましょう。

■ 災害ボランティアの支援を積極的に活用

- ・地域の多様なニーズに対応できるようNPO、専門家など外部の支援を活用しましょう。

物 資

■ 男女両方の物資担当者を配置

- ・女性用品(生理用品、下着等)のニーズ把握は女性が女性に対して行いましょう。



■ 女性専用の物資は配慮を

- ・女性用品は女性が配布する、女性用トイレや女性専用スペースに置く、などの工夫をしましょう。

人権と安全

■ 相談窓口や支援機関の情報を一覧にして掲示

- ・DV、男女別、高齢者、子ども、妊産婦、外国人などの相談窓口の情報を種類によって整理しましょう。

■ 女性と子どもの安全対策

- ・巡回警備、ホイッスルの配布など暴力を防止する対策を行いましょう。
- ・DVや性暴力は見過さず、暴力を許さない雰囲気をつくりましょう。

■ 避難者名簿の管理を徹底

- ・DVやストーカー被害者のプライバシーを保護するため、性別と年齢に加えて「名簿公開の可否」の記入欄を作成しましょう。

■ 多様なニーズへの配慮

- ・高齢者・乳幼児・障害のある人・外国人・性同一性障害の人などの多様なニーズを把握し、外部の支援を活用しながら的確に対応しましょう。
- ・ケースによっては、指定された福祉避難所への移送を手配しましょう。

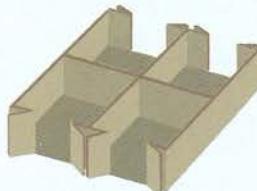
避難所レイアウトの工夫例

多様な人々が避難所で安心して生活していくために、避難所の運営、スペースの活用などを、男女を交えて話し合い、決めておきましょう。

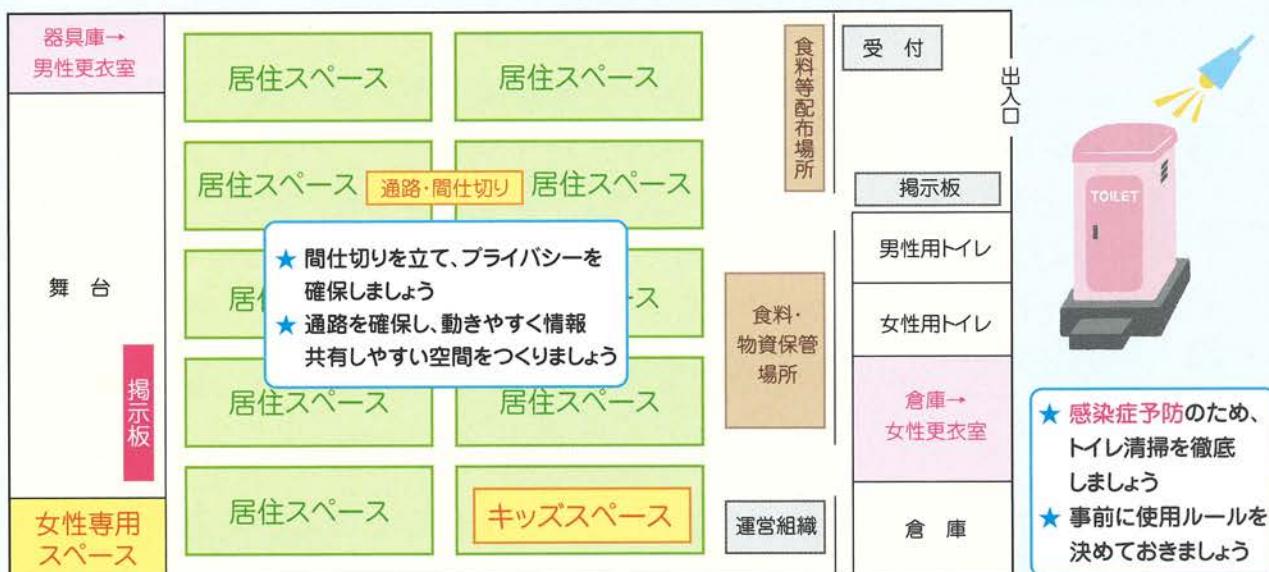
開設当初から設置しましょう

- 授乳室 男女別のトイレ 男女別の物干し場 男女別の更衣室(女性専用スペース)

- ★ 男女別の更衣室や、下着などを気にせず干せる物干し場を設置しましょう



- ★ トイレは男女別に分け、暗がりにならない場所に設置(夜間照明の設置)するなど安全面に留意しましょう



- ★ 多様なニーズを把握し的確な情報提供ができるよう、できるだけ多くの箇所に掲示板を設置しましょう
★ 視覚・聴覚に障害のある人や外国人等にも配慮し、情報の伝達方法を工夫しましょう
★ 相談窓口の情報は女性専用スペースやトイレに掲示するなど掲示場所を工夫しましょう

- ★ 乳幼児やその家族が安心して過ごせるよう、授乳室、キッズスペースなどの専用スペースを確保しましょう



- ★ 共通の居住スペース以外に介護が必要な人や感染症にかかった人が居られる個室を用意しましょう

- ★ 男性が参加したくなるイベントや、ワークショップなど、男性がいきいき集う場を作りましょう

〈在宅避難者への配慮〉

- 在宅避難者への情報伝達方法や安否確認、物資の配布などのルールづくりを家族に乳幼児や障害のある人がいるなど、様々な事情で在宅避難している人へも物資や情報が届くしくみを考えておきましょう。

2

方針決定に女性が 参画できる自主防災組織

組織づくりのポイント

■ 男女の両方がリーダーになる

- ・男女共に力を発揮してこそ、災害に強い地域ができます。
男女両方(複数)が役員になりましょう。

■ 仕事別に班分けし、男女ともに配置

- ・班の編成や運営を決める時に、男女の役割を固定しない
ようにしましょう。

■ 様々な団体との連携

- ・地域の女性団体、市民団体や老人会などと普段から連携し、
災害時にも助け合える体制をつくりましょう。

■ 隣近所の助け合いの仕組みづくり

- ・近所づきあいで顔を見知って、助け合える関係をつくり
ましょう。

■ 多様な個人の意見を運営に反映

- ・高齢者、子ども・若者、障害のある人、外国人など、多様な
個人の意見を聞き、組織の運営に反映させましょう。



3

地域のみんなが 参加する防災訓練

防災訓練のポイント

■男女が共に参画する防災訓練を定期的に実施

- ・多様な人々が参加しやすいよう平日昼間、夜間、休日などいろいろな時間帯に実施しましょう。
- ・地域の女性団体、市民団体、学校、保育所や企業などと連携しましょう。

■女性や子ども・若者が参加しやすい工夫を

- ・女性や、小学生、中学生、高校生、大学生などが興味を持ちやすく参加しやすい内容の訓練を行いましょう。

■高齢者、障害のある人や外国人などの参加

- ・多様な人々のニーズに配慮した訓練を実施しましょう。

■役割を性別で固定しない

- ・「機器操作は男性、炊き出しは女性」などと決めつけないで、柔軟に役割分担しましょう。

■備蓄品や防災資機材選びは様々な人の視点を反映

- ・女性や乳幼児、介護者などのニーズも把握し、備蓄品を選定しましょう。
- ・誰もが使いやすい防災資機材を用意しましょう。



■避難所のシミュレーションを

- ・避難所の配置を考えたり、防災資機材を性別や年齢を問わず、多くの人が実際に使えるよう訓練を実施しましょう。

■地域防災指導員などを活用

- ・地域には、地域防災指導員や防災士、防災マイスターなど、防災の知識を持った様々な人材がいます。
- ・これらの人材と連携して、防災訓練の企画や訓練時の指導、自主防災活動の支援をしてもらうのも良いでしょう。



地域の実情を把握しましょう

地区の人口= 人
(男性 人、女性 人)
乳幼児=約 人、妊婦=約 人
高齢者=約 人(約80歳以上)
要介護の高齢者=約 人
障害のある人=約 人
外国人=約 人(言語 語、 語)
(おおよそでよいので実態に即して知る)

県内市町の取組事例

県内市町の取組事例を静岡県男女共同参画課のホームページで公開しています。
こちらをご覧ください

<http://www.pref.shizuoka.jp/kenmin/km-150/bousaitebikisho.html>

- 男女共同参画の視点を取り入れた自主防災活動
- アンケート調査を実施して多様なニーズを備蓄品に反映
- 女性の視点での防災対策意見交換会
- 自治会で「防災女性の会」を立ち上げ
- 女性団体が女性の視点で地域の防災備蓄品を確認 など

固定的な性別役割分担にとらわれない防災訓練（掛川市構江区自主防災会）

★男女の役割を固定的に考えないで分担する工夫★



女性が
テント張り



男性が
炊き出し

（撮影：曾根順子氏）

この冊子は「ふじのくに男女共同参画防災プロジェクト」として、男女共同参画団体や防災関係者、市町などとの協働で作成したものです。また、この冊子の作成にあたっては、静岡大学教育学部の池田恵子教授に監修をお願いしました。

男女が共に支え助け合う防災体制づくりに向けて（男女共同参画の視点からの防災手引書ダイジェスト版）

平成25年6月 初版／平成27年3月 第2版

発行：静岡県くらし・環境部 県民生活局 男女共同参画課

〒420-8601 静岡県静岡市葵区追手町9番6号

TEL 054-221-3363 FAX 054-221-2941

E-mail danjyo@pref.shizuoka.lg.jp

ホームページ <http://www.pref.shizuoka.jp/kenmin/km-150/danjo1.html>



印刷用の紙にリサイクルできます。

この印刷物は、9,500部作成し、1部あたりの印刷経費は10.9円です。